



【Press Release】

電気自動車普及協議会

Association for the Promotion of Electric Vehicles

会員、報道機関 各位

2013年12月24日

電気自動車普及協議会

会長 福武 総一郎

代表幹事 田嶋 伸博

第8回大阪モーターショー内 安藤忠雄氏 × 福武会長対談企画

「現代アートと電動モビリティによる地域再生・未来のまちづくりを語る」

開催のご報告

拝啓 皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

電気自動車普及協議会(以下 APEV)では、去る2013年12月21日、第8回大阪モーターショー内の特別企画として、建築家 安藤忠雄氏と弊会会長 福武総一郎による公開対談を行いました。

下記に概要をご報告申し上げます。

—記—

「現代アートと電動モビリティによる地域再生・未来のまちづくりを語る」

日時: 2013年12月21日(土)午前10時～11時30分

会場: インテックス大阪 センタービル2階 国際会議ホール

登壇者: 安藤 忠雄氏 (建築家・東京大学名誉教授)

福武 総一郎氏 (APEV会長・㈱ベネッセホールディングス取締役会長)

モデレータ: 荒木 美和氏 (NHK奈良放送局アナウンサー)

主催: APEV

特別協力: 読売新聞社

第8回大阪モーターショーは「人とつながる 社会とつながる クルマはもっと進化する」がテーマとなっています。モーターショーという名称からもわかるとおり、企画・展示のメインはクルマですが、クルマも年々「走る」という機能以上に、環境問題等を含む社会とのつながり、人とのつながり、地域との共

生というところがよりクローズアップされるようになってきました。

そんな中で、建築家としての安藤忠雄様、また教育産業及び電気自動車普及協議会のトップとしての福武總一郎会長が、地域再生の活動や、クルマとの共生、またこれからのまちづくりについて、それぞれの領域でのオピニオンリーダーでもある二人に大いに語ってもらおう、という主旨でこの対談が企画されました。

年末もいよいよ差し迫ってきた12月の寒い土曜日の朝、本当に聴衆の方々は集まるのだろうか、という安藤先生や主催関係者の心配をよそに、会場にはほぼ満員の220名を超える方々で埋め尽くされ、皆さん大変熱心にメモをとりながらお二人の議論に聴き入っていました。



満員の観客席

モデレータ荒木氏

左・安藤忠雄氏／右・福武会長

APEV福武会長からは、

- ・1980年代から安藤先生とともに取り組んでいる、瀬戸内海での現代アートによる地域再生活動のお話、及びこうした地域活動により地元のお年寄りを中心に「年をとれば取るほど幸せになれる」世の中をめざしている、

というお話のほか、

- ・かつて自動車の産業廃棄物の不法投棄問題で揺れた瀬戸内海の豊島(てしま)にて、2013年夏から観光客向けに電気自動車の超小型モビリティがレンタカーとして貸し出され、大変な人気であること

また、

- ・EVが環境に優しいだけでなく、災害時は非常用電源ともなる

といった幅広い話題が提供されました。

これを受けて安藤先生の方からも、

- ・先日、ご自身もアメリカで友人のEVに初めて乗ったエピソードの紹介
- ・EVの普及には、社会全体のシステム作りが必要であるといったお話がありました。

また、福武会長から「地球温暖化の問題が人間の活動によって引き起こされている可能性は95%以上」とはっきりと結論づけた、今年のIPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change: 気候変動に関する政府間パネル)の話題にも及び、安藤先生からも

・近い将来、現在70数億人の人口が90億人に増加した時に、インドやアフリカ等の新興国の人も現在の先進国の人たちと同じ暮らしをし始めると、世界のエネルギー政策が立ち行かなくなる
・これらの新興国の人たちと分かりあえる為には、何よりも「教育」が一番大事
というお言葉がありました。

最後に、モデレータの荒木さんより、「地域再生や未来の街づくりにおいて、一番大事なことは何ですか」という質問に対して、

安藤先生からは

- ・地球の環境問題解決に関しては一人ひとりの意識の積み重ねが大事である
- ・また、皆がそれぞれの分野で力や知恵を出し合うことが大事ではないか

というお答えがありました。

そして福武会長からも、

- ・日本再生のシナリオは特に地域の人々の暮らしを良くしていくことが急務
- ・例えば、地方の魅力・美味しいものは、そのまま東京に売るのではなく、その地域で消費する、あるいはその地域にわざわざ出かけて行って体験するということが大事
- ・地球温暖化問題に対して自分が大変関心を持っている、こうした世の中の問題を解決しなければならぬという意味表示の手段としてEVにあえて乗るという選択肢もありなのではないか

というお話がありました。

前日には雪も降ったという寒空の中で実際に会場に足をお運びくださった多くの皆様、そしてこの対談企画の開催に力をお貸しくださった、読売新聞様はじめたくさんのお客様の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

— 以上 —

*** 電気自動車普及協議会では会員を募集しております。**

お気軽に事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ先:

電気自動車普及協議会 (Association for the Promotion of Electric Vehicles: APEV)

事務局 安嶋 言一郎 (ヤスジマ ゲンイチロウ)

〒160-0023 新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル 8F

電話: 050-3736-8325 E-mail: info@apev.jp Website: www.apev.jp